

薩摩郷句鑑賞 163

やかさの方が、もつと効いたのかも知れない。

安しか品金の程じやち身い沁みづ
(唱) 洗濯くしたや縮んだパンツ

薩摩狂句曆 三條風雲児著 から

六月灯女房ん浴衣も久振い

林 夢太郎

鹿児島 長谷 俊風

飲ん出せば何の寄合かもけ忘れつ
(唱) 酔くろたぎいな天下泰平

西 幸子

鹿児島 長谷 俊風

マスク無し笑顔ん稽古じやち世は平和
(唱) 鏡む見ながら愛想笑れもしつ

鹿児島 長谷 俊風

先き九九を妹ち言われつ泣つかぶつ
(唱) 鏡む見ながら愛想笑れもしつ

鹿児島 長谷 俊風

鬚剃いな念ぬ入れ出たマスク無し
句が出来た紙ぬ持つ来ち風呂ん中
二見 愚樂満

井上 三ちゃん

江口 紫朗

井上 三ちゃん

江口 紫朗

七月に入ると、県下各地の神社や寺では、六月灯が催されるが、六月灯と言えば、吊るされた灯籠の下を、浴衣に下駄ばき、腰に団扇などさした人々がゆききする姿が目に浮かんでくる。そして、綿菓子やスルメを焼く匂いまでが、ただよつてくるような懐かしさがある。

急ぎたてるような花火の音に、子供たちを連れて出かけたであろう。ほほえましい。

土用鰻ぎ酌も浴衣ん女房がしつ

津曲 とっこ

氣は重びがヨイショち行つた親友の通夜
(唱) 切ねこつじやが気合を入れつ

伊地知 孝

柳村 遊月

大谷いイチロ松井ん名も霞ん
(唱) 人気ん柄が違ご二刀流

大崎 遠矢 酷多

郷句募集

◎9号

題吟「直き(たつちき)」

締切 令和5年8月4日(金)

◎10号

題吟「気温(はだも)」

締切 令和5年9月4日(月)

◎選者権口 一風

◇漢字のわからない時は、カナで書いて応募くだされば選者が適宜漢字をあててくださいます。

◇応募先 〒八九二一〇八四六

鹿児島市加治屋町三番一〇号
鹿児島市医師会「鹿児島市医報」編集係

T E L ○九九一二三六一三七三七

F A X ○九九一二三五一六〇九九

E-mail:ihou@city.kagoshima.med.or.jp

見えんでもち來たで検査も見えん言つ
(唱) 婆い叱られた検査んナース

西田 郷花

ところでこの句、奥さんがうなぎを焼き、晩酌の用意をして待つていたのである。もちろんうなぎの効き目もあることだろうけれども、ひよつとすると、風呂上がりの肌に薄化粧した、浴衣姿のあで

鹿市医郷壇

地

上町支部 吉野なでしこ

五客二席

伊敷支部

谷山五郎猫



夏祭り浴衣姿で盛り上げ

(唱) 団扇片手い娘御も青年も

(評) 兼題が「浴衣」だったので、浴衣が主語になる句を「地」に頂きました。

鹿児島の夏祭りは、六月灯に始まり、お祇園祭、町内の夏祭りと続きます。六月灯や夜祭りなどの情緒を醸し出すのは、娘たちの浴衣姿でしょう。

最近は浴衣を着る機会が無いので、浴衣は買っても、下駄を持っていなくて、仕方なくスニーカーという子供もいます。

何はともあれ夏の祭りには浴衣です。

五客三席 清瀧支部 鮫島翁兒医
(唱) 暑き晩も浴衣一枚で涼しゆなつ
(唱) 糊ゆば効かせつ良か風通し

五客四席

伊敷支部 吉野なでしこ

谷山五郎猫

転婆娘も浴衣を着ればお嬢様
(唱) 裙が纏付つて優しゆ歩つ

五客五席 上町支部 吉野なでしこ
(唱) 性根あやつぱい大和なでしこ

清瀧支部 鮫島翁兒医
(唱) 腕まくゆしちや終な肩脱つ

人

紫南支部 二軒茶屋電停

五客五席

清瀧支部 鮫島翁兒医

谷山五郎猫

婆さんも派手な浴衣で少す色氣
(唱) 連立ん歩けば二度見をされつ

秀逸

上町支部 吉野なでしこ

伊敷支部 鮫島翁兒医

谷山五郎猫

浴衣着つ縁台でビール良か晩な

茶髪よか黒髪が似合浴衣美人

五客五席

清瀧支部 鮫島翁兒医

谷山五郎猫

浴衣着た娘い色氣が見え隠れ

日本なつ夏の情緒い合た浴衣

(評) 昔はクーラーなどという文明の利器はまだありません。夕食が済むと路地に縁台を出して、将棋や囲碁が始まるとも夏の風物詩でした。

囲碁や将棋を打つ人と見物の人が、それぞれの味方になつての熱戦です。「気合や入つ」で、爺さんが浴衣の袖をたくし上げて頑張っている様子が分かります。

縁台に浴衣と団扇と蚊取り線香が浮か

(唱) 六月灯浴衣ん美人に日が泳つ
(唱) 沢山居つて嬉し目の養生
(評) 六月灯と浴衣は切つても切れな
い夏の風物詩です。どういう訳か女性
が浴衣を着ると、色っぽく見えるのは
私だけではないようです。

この句の人も、浴衣の美人の虜になつたようで、困つていています。行合
う浴衣美人を目が追い掛けています。

「目が泳つ」と面白い表現をしてあり
ます。